

## 富士川游先生を偲んで

赤松金芳

昭和十五年十一月六日、恩師富士川游先生が亡くなられてから早くも五十年の歳月が流れました。私は昭和二年一月大阪から鎌倉に移住し、富士川先生から医史学、児童学、宗教その他につき親しく御指導を賜りました御高恩は謝するに言葉がありません。

次にここに申し上げたいことは、富士川先生の創設せられました多くの会は理事の合議制で、会長がないものが多くありました。わが日本医史学会も理事制でその理事長が会を代表し、それが継承されて今日に及んでいます。

富士川先生の著書には医史学関係として『日本医学史』の大著を始め、『日本疾病史』『日本医学史綱要』『医箴』その他多数あり、近くは富士川英郎氏の編集になる『富士川游著作集』が刊行されたことは周知のことですが、先生の他の一面である宗教関係のものはあまり知られていないようです。その主なるものを挙げますと『医術と宗教』『科学と宗教』『生死の問題』『宗教の心理』『宗教生活』『眞実の宗教』等々その他多数の著書があり、そして先生最後の著書としては永富独嘯庵の『漫游雜記』を先生が医史学的知見と宗教的信念を持って解明訳述された『訳解漫游雜記』があります。

先生は御在宅の休日にはいつも私宅へ見えられて、児童学会の会員で学校長の藤田氏等と何かと現今の世相や教育問題などの雑談に過ごされました。そして富士川先生は書道にお見事な数々を残されましたが絵も亦軽く画かれ、或日即興に画いて豊子に渡されました自画像は「子長」の号と共に先生のおもかげそのままでございます。この程、古机の中から出てまいりましたので複写してお目にかけます。〔六一頁に掲載〕